

## 5 全体考察

### (1) 実技に関する調査から

#### 《体力合計点から》

- 小学校の平均は、男子が-0.56点と「わずかに低く」女子が-0.26で、「ほとんど差がない」結果であった。
- 小学校女子においては、平成21年度の本調査以降最高の得点であった。
- 中学校の平均は男子が-1.35点と「低く」、女子が-0.85点と「わずかに低い」結果であった。
- 中学校女子においては、小学校と同様、平成21年度の本調査以降最高の得点であった。
- 小学校の体力合計点の総合評価「A+B」-「D+E」の値を前年度比較すると、男子が-1.2ポイントと低くなっている。女子は、+2.4ポイントと高くなっており、体力の向上がみられる。
- 中学校の体力合計点の総合評価「A+B」-「D+E」の値を前年度比較すると、男子が-2.4ポイントと低くなっている。女子は±0ポイントで変化がなかった。
- 児童生徒の体力合計点は、小学校中学校男女ともに全国平均に達していないことから、体育・保健体育の授業を一層充実させるとともに、部活動の活性化や、家庭・地域との連携を深め、生涯にわたって、運動やスポーツをしようとする意欲を高めることが必要である。
- 特に、体力合計点の評価が「D、E」の児童生徒に対して、体育・保健体育の授業や学校行事等において、協力し合う楽しさや運動する心地よさ等を味わわせる取組を学校全体で取り組むことを期待したい。

#### 《実技調査から》

- T得点50以上の項目は、小学校では男子が握力、立ち幅とび、ボール投げの3項目であった。女子は握力、50m走、立ち幅とび、ボール投げの4項目であった。
- 中学校では、男子は0項目、女子が立ち幅とび、ボール投げの2項目であった。
- 長座体前屈のT得点は、小中学校の男女ともに、3年連続49以下となっており、長座体前屈(柔軟性)に課題がある。
- 中学校では、男子の上体起こし、50m走は3年連続で、女子の上体起こしは2年連続でT得点49以下であった。
- 新体力テストで、児童生徒がもっている力を正確に把握させるためには、真剣に、最後まで取り組ませることが大切である。そのためにも実施目的を理解させるとともに、全国・県の平均値や前年度の自分の記録等、目安となる目標を示したり、自分の伸びがわかるような6(3)年間の記録カードの作成したりするなど、一人一人の実態に即した事前・事後の指導が大切である。
- 新体力テストは、学校における体力・健康に関する指導の取組を評価する指標の1つであることから、自校の結果の成果と課題を分析するとともに、学校・学年における具体的な目標設定やたくましい“かごしまっ子”育成推進プランを見直し、学校教育活動全体で、また、全教職員でPDCAサイクルに基づいた実践が大切である。

## (2) 運動習慣等に関する調査から

### 《平日の運動時間から》

- 小学校では、月曜日から金曜日までの運動時間に全国平均との差はみられなかった。
- 中学校では、月曜日はわずかに長い、火曜日から金曜日までは短い結果であった。

### 《土日の運動時間から》

- 小学校では、女子の運動時間に全国平均と差はみられなかったが、男子において、全国平均より土曜日で18分、日曜日で25分短い結果であった。
- 中学校では、男女とも土曜日は全国平均と差はないが、日曜日に短い傾向があり、男子で9分、女子で12分短い結果であった。

### 《1週間の総運動時間から》

- 小学校では、全国平均と比較すると男子で-34分、女子で-5分と男子において「短い」結果であった。
- 中学校では、全国平均と比較すると男子で-21分、女子で10分短く、男子において「わずかに短い」結果であった。
- 1週間の総運動時間については、全国と同様に中学校男女ともに二極化がみられた。
- 1週間の総運動時間が0分の児童生徒は、小学校男女及び中学校男子で約3~4%、中学校女子で約9%となり、前年度と比較すると、小学校男女、中学校女子は減少した。
- 1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合は、前年度と大きな増減はなかった。
- 1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒の割合は、中学校男子を除く、小学校男女、中学校女子で増加した。

## (3) 生活習慣等に関する調査から

### 《朝食の摂取状況から》

- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男子が-2.9ポイント、女子が-3.4ポイント、中学校男子が-2.1ポイント、女子が-1.2ポイントと小中学校の男女ともに低かった。
- 県の前前年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合が小学校では男女とも3.6ポイント、中学校男子が3.5ポイント、女子が5.3ポイント減少している。

### 《夕食の摂取状況から》

- 夕食を「毎日決まった時間に食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男子が-7.3ポイント、女子が-7.8ポイント、中学校男子が-7.7ポイント、女子が-6.1ポイントと小中学校男女ともに低かった。

### 《睡眠時間から》

- 睡眠時間が「8時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男子が-3.2ポイント、女子が-4.8ポイント、中学校では男女とも-4.1ポイントと小中学校ともに低かった。

(4) 運動やスポーツ, 体育・保健体育の授業に対する意識に関する調査から

《運動やスポーツに関する意識調査から》

- 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男子、中学校男女で高く、小学校女子では、ほとんど差がなかった。
- 過去2年間の県平均と比較すると「好き」と回答した児童生徒の割合が増加している。
- 体育・保健体育の授業が「楽しい」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男子が+1.9ポイントとわずかに高く、小学校女子、中学校男女では、ほとんど差がなかった。
- 体育・保健体育の授業のはじめに目標が「提示されている」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男女で約-3ポイント、中学校男女で約-10ポイントと低い結果であった。
- 体育・保健体育の授業の最後に「学習内容を振り返る活動を行っている」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男女で約-3ポイント、中学校男女で約-14ポイント以上で低い結果であった。
- 体育・保健体育の授業で「友達と助け合う活動を行っている」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男女で約-0.5ポイントとほとんど差がなかった。中学校男女では、約-3ポイント以上で低い結果であった。
- 体育・保健体育の授業で「友達同士で話し合う活動を行っている」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男女で約-1ポイントでわずかに低く、中学校男女で約-7ポイント以上で低い結果であった。
- 小学校、中学校ともに、体育・保健体育の授業において「目標の提示」「学習のまとめ」がなされていると回答している児童生徒の割合が低いことから、児童生徒に目標を明確に示し、学習の見通しを持たせ、自らが運動の課題の解決を主体的に目指す学習活動を行えるような体育・保健体育の授業の充実が望まれる。
- 小学校、中学校ともに、体育・保健体育の授業において「友達と助け合う」「友達同士で話し合う」活動がなされていると回答している児童生徒の体力合計点は、県の体力合計点の平均点より高くなっていることから、児童生徒が友達と助け合ったり、役割を果たしたりするような協働的活動、児童生徒が友達とルールや作戦を話し合ったり、考え合ったりするような体育的言語活動を重視した体育・保健体育の授業の充実を行うことは、体力の向上と関連があると考えられる。

(5) 今後の取組について

### 《今後の方向性》

児童生徒が生涯にわたって「楽しく明るい生活を営む態度」を育てるために、「運動に親しむ資質や能力の育成」や「健康の保持増進及び体力の向上」への取組を具体的に進める必要がある。

そこで、本県の児童生徒は、運動への興味・関心や体育・保健体育の授業に対する意識が高いことから、学校において、教師が児童生徒の実態を真剣に受け止め、「めあての明確化」「運動量の確保」「確実なまとめの実施」を行うなど授業の充実を図るとともに、学校教育活動全体を通じた取組を一層推進する。

また、鹿児島体力コンソーシアムや関係機関と連携し、外部指導者の活用等を通して、学校・家庭・地域が一体となった取組を推進する。

### 《今後の取組》

#### ◆ 学校の組織的な取組の推進を支援

- 各学校における「たくましい“かごしまっ子”」育成推進プランの作成、活用
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析と活用促進
- 体力ナビの積極的活用と児童生徒一人一人への体力カードの作成
- 学校体育に関する学校訪問の実施(小学校4校, 中学校4校)
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(中学校)による実践的取組の紹介
- 「児童生徒の体力を正しく把握するための新体力テスト実施方法手引」(改訂版)の作成
- 小中学校版「体力アップ! チャレンジかごしま」の継続実施

#### ◆ たくましい“かごしまっ子”育成に向けた運動の楽しさを追求した授業、体育指導の工夫改善の支援

- 「基礎から学ぶ」小学校女性教諭等体育セミナー(仮称)の実施
- 小中学校体育主任等研修会の充実
- 新任幼稚園教諭への「幼児期運動指針」についての研修
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(小学校3校, 中学校4校)による実践的研究及び研究公開
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(小学校3校, 中学校4校)への地域スポーツ人材の派遣
- かごしまの子ども体力向上プログラム(小学校版, 中・高等学校版)の活用促進
- 「学びの羅針盤」に基づいた共通実践

#### ◆ 運動習慣の育成に向け、学校・家庭・地域が一体となった取組を促進

- 体力向上や運動習慣形成の重要性についての啓発資料の作成
- 地域スポーツ人材を活用した運動習慣育成教室の拡大
- 体力向上推進フォーラムの実施(隔年開催)
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(第5期)研究公開による普及啓発

## 6 改善のポイント

### たくましい“かごしまっ子”育成に向けた学校における 体力向上，運動習慣改善のPDCAサイクル

県教育振興基本計画における数値目標達成を目指して

項目	実績				目標	
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
運動習慣等調査における1日のスポーツ実施時間1時間以上の児童生徒の割合(小中)	64.9%	※53.3%	※57.8%	※58.2%	67%	70%
体力テストでの，全国平均を100としたときの体力の数値(小中高)	96.5%	95.7%	97.5%	96.8%	99%	100%

※ 平成25年度から、「全国体力，運動能力，運動習慣等調査」の質問が変更になり1週間の運動時間合計を7で割った時間を基に算出

